

## 大学

健康医療科学部 医療貢献学科 言語聴覚学専攻

### 嚥下障害Ⅰ

志村 栄二 教授

「飲み込み」の検査・評価を実践し、  
言語聴覚士の専門性を培う。

「話す・聞く・食べる」ことに問題がある人を支える言語聴覚士。その養成に特化した言語聴覚学専攻では、医療現場で必要な専門知識・技術を段階的・複合的に修得していきます。2年次前期の「嚥下障害Ⅰ」は、「飲み込むこと」に関するメカニズムや障がいのある人の検査・評価などについて、実技も交えて学びます。学生たちはマスクやフェイスシールド、手袋などで感染症対策を徹底し、反復唾液嚥下テスト、水飲みテスト、頸部聴診による判定などをベアで実践。喉の動きや呼吸音を確かめて、理論だけでなく実感を伴いながら理解を深めます。担当教員の志村先生は言語聴覚士としても活躍中。学生たちが将来、医療人として主体的に考え、向上心や知的好奇心をもって学び続けられるように、臨床経験に基づく授業づくりや指導を大切にしています。



# 愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

## 高等学校

愛知淑徳高等学校

### 英語表現

山本理 教諭

英語を母語とする人々の発想を理解し、  
英語表現の基盤を築いていく。

「自分の考えを英語で表現するための基盤を築くことが、『英語表現Ⅱ』の到達目標です」と話す山本先生は、授業で生徒に安易にわかったつもりにさせないことを大切にしています。山本先生はあらかじめ演習問題で生徒の誤答を分析し、一人ひとりのつまづくポイントを把握します。その傾向に基づいて授業中の設問や解説などを工夫し、生徒が自ら間違いに気づいたり、疑問を持つて学びを深めたり、能動的に英語を身につけていく指導方法を重視しています。「英語を母語とする人々が、どんな気持ちでその表現を使っているのか。そうしたところまで理解し、英語をおもしろがって学んでほしい」と語る山本先生。生徒たちが高校時代に英語の基礎を着実に固め、日本語との違いを深く理解し、英語の運用能力を高めてほしいと期待しています。

